

ARIMASS 研究年報 執筆要領

2015年12月22日制定
危機管理システム研究学会

(目的)

第1条 本要領は、『ARIMASS 研究年報』に投稿される論文等の執筆に関わることに
関して、規定したものである。

(言語)

第2条 日本語または英語のいずれかとする。

(様式)

第3条 原稿は、表紙と本文で構成する。

2. 表紙は、論文題目（日本語、英語）、氏名（著者全員。日本語、英語）、所属と肩書き（日本語、英語）、連絡先（氏名、住所、電話番号、Fax 番号、E-mail アドレス）、論文概要（日本語(400 字以内)、英語 (800 語以内)）、キーワード（5 項目以内（日本語および英語で表記）の順番で記述する。ただし、表紙には頁を付さない。
3. 本文（図・表含む）、注、参考文献、（もしあれば）補遺の順番で記述する。ただし、謝辞は記載しない。また、執筆者を特定、あるいは類推させるような表現を避ける。
4. 原稿は、ワープロ（Microsoft Word が望ましい）で作成した横書き文書を原則とする。原稿は A4 版で、文字数と行数は 35 文字×30 行、字数は一頁あたり 1050 字程度で作成すること。余白は、上 30mm、下 35 mm、左 30 mm、右 30 mm を基準とする。
5. フォント、配置等は付表 1 のように定める。
6. 論文等の字数に関しては、投稿規程第 5 条を参照する。

(構成)

第4条 本文の節、項等については、以下のように定める。

(1 行空き)

I 見出し

(1 行空き)

本文

1. 見出し

本文

(1) 見出し

本文
（1行空き）
Ⅱ 見出し
（1行空き）
本文
1. 見出し
本文
…
参考文献

（表記）

第5条 横書き、現代仮名遣い、当用漢字、新字体を使用する。接続詞（および、ならびに、また、ただし等）についてはひらがなを、数字についてはアラビア数字を使用する。また、外国人名については原語により表記する。なお、本文の句読点は、句点（。）と読点（、）とする。

（図表）

第6条 図、表はそれぞれ上部に、章番号と通し番号（たとえば、図表 1-1、図表 1-2、図表 2-1、図表 2-2、図表 2-3・・・）をつけて、本文中にそのまま入力・配置し、簡単な見出しをそれぞれにつける。また、引用した場合は、その出所を図表の下に明記する。

（引用および注）

第7条 文献を引用するための注については、本文内（ページの最後）に脚注文書を第7条第2項に従い、記載する。

2. 表記にあたっては、著者[発行年]ページを付す。たとえば、危機 [2015]pp.15-16、Ally and Mass[2014]pp.23-24（年号については西暦を、表記にあたっては半角文字を使用する。）。また、人名の表記において和文献については姓のみとし、洋文献については family name とする。なお、上記の表記法においては区別ができない場合には、人名については Ally R.T.または危機太郎のようにフルネームとする。年号については年号に a、b、c…を付す。

（参考文献および参考URL）

第8条 研究に引用した文献（論文、著書、URL等）のリストを本文の最後に、和文献と洋文献を区別し、和文献は五十音順、洋文献はアルファベット順に次の様式で記載する。

<例>

- 和書 著者名[出版年]『書名』出版社名
 論文(和) 著者名[出版年]「論文名」『雑誌名』第○巻第○号, ○-○頁
 洋書 family name, personal name[出版年], 書名, 出版地 (または出版社名) .
 論文(洋) family name, personal name[出版年], “論文名” 雑誌名, Vol. ○No.○, pp.○-○

なお、personal name については R.T. (例えば、Ally R.T.) のように省略して記載する。また、論文の頁数については当該論文のフルページを記入し、さらに、出版年については西暦で記入する。なお同じ著者で出版年が同じものがあるときには、出版の早いものから、a、b、c…と付す。

洋文献に関し、書名、雑誌名、新聞名はイタリックで表記する。

2. 著者が複数の場合
日本人については危機太郎・危険二郎のように、外国人については Ally R.T. and M. Mass のように記載する。
3. 論文が著書の 1 章に該当している場合
和書については、
著者名[出版年]「論文名」編著者名編[出版年]『書名』出版社名, ○-○頁。
洋書については、
family name, personal name[出版年], “論文名,” in family name, personal name (ed.)[出版年], 書名, 出版地 (または出版社名) , pp.○-○.
と記載する。
4. 訳書については、原著書を使用しない場合には和書に準じて取扱う。原著書を使用する場合には、原著書について洋書として記載した後に、括弧書きで訳書を記載する。

<例>

Littleton, A.C.[1933], Accounting Evolution to 1900, New York (片野一郎訳[1978]『リトルトン 会計発達史 (増補版)』同文館出版)

なお、編著、訳書については、編著、訳書の出版地 (または 出版社名) に続いて出版年を記載する。ただし、それを引用文献として使用しない場合には、[出版年] の記載は必要ない。

5. 参考 URL は、参考文献に続けてアルファベット順で記載する。

<例>

著者名 『 タイトル 』 (URL: <http://www.xxx.xxx.com> 閲覧日: ○○○年□□年△△日)

(その他)

第 9 条 全体の統一を図る為、文章、仮名遣い等について、研究年報委員会が修正

することがある。

(改廃)

第 10 条 本要領の改廃は、研究年報委員会において委員の過半数の賛成を得て、常任理事会に報告のうえ、行う。

(付表 1) フォントサイズ等

項目	サイズ	フォント	配置等
主題(タイトル)	14 ポイント	MS 明朝	センタリング
副題(サブタイトル)	12 ポイント	MS 明朝	センタリング
執筆者名	10.5 ポイント	MS 明朝	右寄せ
所属	10.5 ポイント	MS 明朝	右寄せ
論文要旨	10.5 ポイント	MS 明朝	左寄せ
キーワード	10.5 ポイント	MS 明朝	左寄せ
本文	10.5 ポイント	MS 明朝	左寄せ
章	12 ポイント	MS 明朝	センタリング
節	11 ポイント	MS 明朝	センタリング
項(節内の小見出し)	10.5 ポイント	MS 明朝	左寄せ
参考文献	10 ポイント	MS 明朝	左寄せ
注	9 ポイント	MS 明朝	左寄せ

* 英文については、Times New Roman フォントを使用すること。
